

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

都道府県名	13.東京都
市区町村名	13117北区
自治体区分	都道府県

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組これまでの取組状況	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状値	単位	目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）	目標等の公表先
13117北区	②学校と地域の課題	03 学校支援ボランティアの確保・育成	学校では、多様化・複雑化する児童・生徒の課題や教員の業務量の増大が問題となっている。そういった学校の抱える課題を、地域と連携・協働して解決していく仕組みを推進しているところではあるが、十分に浸透していない現状がある。そのため、学校側が、地域の貴重な人材を生かせずにいる、または地域も学校のニーズを把握できず、十分な関りを持っていない事例が見受けられる。	・6年度に他区の統括コーディネーターを講師として招き、研修を行ったところ、非常に勉強になったという感想が多かった。また、他の学校の取り組みについても、紹介して欲しいという意見が多いため、引き続き、様々な取り組みに触れる機会を提供する。 ・学校によって、制度の理解に差があるため、引き続き、学校への周知も力を入れていきたい。 ・地域学校協働活動推進員や学校から相談を受ける機会も多いため、適切な支援を継続していく。	・地域学校協働活動推進員を対象とした研修会・地区交流会を開催し、他区の事例や、他の学校の活動や取り組み、実践的な知識を学ぶ機会を提供する。 ・校長会や、教職員に対して、制度の周知、活動の紹介などを行い、学校側の制度への理解を深める研修や説明会などの取り組みをしていく。 ・その他、学校と地域がより良い関りを持つことができるよう、情報共有や提案を行う。	学校と地域の連携・協働の仕組みをより浸透させていくことで、教員の業務負担が軽減される。さらに、そういった連携・協働の仕組みにより、子どもたちが様々な体験や地域の人々と関わることになり、地域への愛着がわく。	子どもたちが地域と関わる体験活動の数	64	件	80	159	04 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた 全体的に、地域の方が学校に関わって行う行事が増えている。ただ、学校によって差が大きい。地域学校協働活動としてのボランティアが定着しているところもあるが、一方でほとんど実績のない学校も見られるため、スクールコーディネーター間の情報共有や研修、また学校への周知を図る必要がある。	https://www.city.kita.tokyo.jp/shogai-renkei/kosodatekyoiku/shogakko/volunteer/index.html
13117北区	③学校と家庭の課題	01 家庭等における学習習慣の定着	小学校3年生～6年生を対象に週1回程度放課後に外部指導者による補習教室を小学校及び義務教育学校(前期課程)で実施している。全児童が小学校で習得すべき基礎学力を身に付けるために、個々に合わせてきめ細やかな指導を行い、小学校におけるつまづきを解消することが課題となっている。	令和6年度に引き続き以下の内容について取り組む ・北区基礎・基本の定着度調査のフォローアップ教材や東京ベーシック・ドリル(東京都教育庁指導部)等を活用して、児童の習熟度に応じた指導を行う。 ・北区基礎・基本の定着度調査の「国語」・「算数」の問題を用いて本教室の効果検証を行い、その結果を報告させる。	北区基礎・基本の定着度調査のフォローアップ教材や東京ベーシックドリルの問題集を活用したことにより、前学年までの復習や反復練習、既習事項の定着に繋がる学習を進めることができた。令和7年度も継続し、効果的な事例は積極的に共有を図りムダ・ムラ・ムリのないよう取り組む。	・日々の意欲的な学習習慣の確立、苦手教科の克服により喜びや自信が得られるようになる ・中1ギャップの解消	北区基礎・基本定着度調査における目標値の達成率(小4～中1 平均値)	108	%	100	108	04 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた ・学習指導員に何度も質問することができる ・わかるまで丁寧に教えてもらうことができる ・苦手な部分に集中して取り組むことができる 上記のことから基礎・基本の定着に繋げることができ、新学年の学習への不安を自信へ変えることができた。今後、より充実した内容で運営していくために、学習指導員と教員の児童の学習状況の情報共有をはかる。効果の高い指導方法は全体で積極的に共有していく。	https://www.city.kita.lg.jp/children-edu/schools/1018262/1018670.html
13117北区	③学校と家庭の課題	02 放課後等における多様な体験活動	各家庭の経済格差等を理由として、子どもたちが多様な体験・活動に参加する機会に格差が生じていることが大きな課題となっている。	・各放課後子ども教室において、多様な特別活動を提供する(例:工作)。 ・保護者や地域の方に講師を依頼し、子どもの成長により寄与できるような内容とする(例:スポーツ)。	令和6年度に実施した特別活動では工作、スポーツの参加人数が多かったため、令和7年度では各放課後子供教室で工作、スポーツを実施する。	家庭以外で多様な活動を経験することにより子どもたちの興味関心の幅が広がる。	前年度比の子どもの参加人数	6,449(R7.1月時点)	人	7000	7,712	04 本年度の目標値を上回り、課題の解決に向けて大きな成果が見られた 昨年度よりも特別活動の回数を増やしたり、児童が興味を引くような活動内容を設定することで、児童の参加人数は目標値を上回った。しかし、各放課後子ども教室によって特別活動の開催数に差があるため、特別活動のさらなる充実が必要である。	https://www.city.kita.lg.jp/children-edu/childcare/1002833/1008074/1008093.html